

盤二脚。○註前別臺盤下廻敷油單絹折鯖口。○中略。四角納言參議座前立朱漆四尺臺盤十一脚。別六行脚其下敷油單以一鋪廻三十二脚下四角折鯖口之。○中略。非參議大辨座前立朱漆四尺臺盤一脚。○下略。

〔倭名類聚抄十六〕大槃 唐式云大槃本朝式云朱漆臺盤黑漆臺盤。

〔書言字考節用集七〕臺盤タバシ載食椀之臺盤支器財。

〔東雅十一〕大槃 タイハン 倭名抄に唐式の大槃は本朝式にいふ朱漆臺盤黒漆臺盤也と註せり。即今の臺盤是也。大山津見神、其二女して、百取机代之物を持しめて、皇孫の尊に参らせしと見えし机といふもの、此物の始とぞ見えたる南北史等に、我國の人食に盤俎なしと見えしはいかに傳へ謬りたりけん、覺束なき事なり。

〔倭訓栞中編十三〕だいばん 臺盤は今寺院に用る飯臺の如し、小臺盤あり、長臺盤あり、ひらの御

盤は丸益の如き物也。薩州に飯をいへり、和名抄に唐式の大槃を併注せり。

〔延喜式十七〕朱漆器

臺盤製作

臺盤一面、長八尺、廣三尺、三寸三分、料漆一斗、一升二合、朱沙一斤四兩、帛四尺、綿三斤十二兩、貲布二丈、調布六尺、掃墨二升、油二合、小麥一升、青砥伊豫砥顯類數者亦准此、炭一石、長功卅八人、中功冊四人、短功五十人、

臺盤一面、長四尺、廣二寸五分、料漆五升、六合、朱沙十兩、帛二尺、綿二斤、貲布一丈、調布三尺、掃墨一升、油一合、小麥五合、青砥伊豫砥、炭五斗、長功十九人、中功廿二人、短功廿五人、

八尺臺盤臺一脚、長七尺六寸、廣二尺五寸、料漆五升、絹布各一尺五寸、布二尺、綿一斤十兩、掃墨一升、油二合、細布五尺黏料、伊豫砥、青砥各小半顆、炭五斗、單功廿五人、

四尺臺盤臺一脚、長三尺二寸、廣二尺三寸、料漆二升、五合、絹布各一尺、綿十三兩、掃墨五合、油一合、細布三尺黏料、伊豫砥、青砥各小半顆、炭二斗五升、單功十三人、略中